



鍵盤ハーモニカなどを使って演奏する児童
＝浜松市中区の市立佐鳴台小

比・マニラ児童と音楽交流

ネット電話使い佐鳴台小、学生が支援

インターネット電話を使って画面越しに交流したマニラ市の児童＝浜松市中区の市立佐鳴台小



浜松市中区の市立佐鳴台小で21日、インターネット電話「スカイプ」を使ったフィリピン・マニラ市との音楽交流が行われた。同小6年生約100人とマニラ市の私立小学校「カリタス・ドンボスコ校」の児童約40人が、鍵盤ハーモニカなどを使って演奏を楽しんだ。

んだ。

静岡文化芸術大中心の学生団体「HANDS」によるフィリピンへの音楽教育普及プロジェクトの一環。学生は2017年から、国内で集めた中古の鍵盤ハーモニカをフィリピンの子どもたちに届け、演奏指導にも取り組んでいる。今回は同校へ約100台を届けた。

両校の児童は鍵盤ハーモニカなどで交互に「きりぎりす」を披露し合った後、マニラの子どもたちがウクレレなどを使った自慢の曲を、佐鳴台小の代表児童が鍵盤ハーモニカで「ラバースコンチェルト」を奏でた。

佐鳴台小の穴原日葵さん(12)は「大学生のように海外で役に立つ活動がしたいと思った」と話した。